令和７年度　全国学力・学習状況調査　小学校６年生算数　大問１（２）

大問１（２）の趣旨

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

授業プラン：第５学年　D（１）円グラフや帯グラフ

グラフを活用する学習において、第５学年で新しく習うグラフ（円グラフや帯グラフといった基準量と比較量との関係を表すグラフ）を既習（棒グラフ、折れ線グラフ等）と関連付けたり、比較したりしながら、目的に応じたグラフの選択や、そのグラフが表す数量の意味をとらえ考えることができるようにしましょう。

本授業プランは、グラフを用いて数量の関係をとらえ、読み取ったデータの特徴や傾向を目的に応じて考察する子どもの育成を目指し、以下の２点に留意して構想しています。

〔調べる対象を表す言葉を丁寧にとらえ、適切なグラフを選択する〕

本学年で新しく学ぶ帯グラフ（全体に対する割合の大きさを示す）と、既習の棒グラフ（実際の数量を示す）がどのような種類のデータの特徴や傾向を読み取るのに有効であるかを理解し、適切にグラフを選択できるようにします。

この理解につながるよう、本授業プランではグラフを読み取る目的に応じて、調べる対象を正確に把握することを重視しています。調べる対象を表す言葉（例：年代別の観客数、年代別の観客数の割合）が指す意味を丁寧にとらえ、既習の棒グラフ（実際の数量）と新しく学んだ帯グラフ（割合）のどちらを用いることが適切であるか、目的に応じて子どもが自ら選択できるようにします。

また、棒グラフで読み取ったことを帯グラフでも読み取れるか考える、帯グラフで読み取ったことを棒グラフでも読み取れるか考える活動を取り入れ、目的に応じてグラフを個別に読み取ることや、グラフを関連させて読み取ることを理解できるようにする。

〔グラフの表す特徴や傾向を、データの種類に応じて正確にとらえる〕

本授業プランではグラフの誤った読み取り例を取り上げ、「なぜその判断が正しくないのか」という誤りの原因や判断の根拠を追究する活動に取り組みます。

特に、割合を表すグラフの読み取りにおいては、グラフ上の値が（実際の量がいくらであっても）全体を 1（または 100%）とみたときの相対的な大きさであることを確認し、「割合」の増減と「実際の数量」の増減のとらえ方の違いを理解して読み取ることができるようにします。グラフの表すデータの特徴や傾向を、見た目等にとらわれず正確に判断できるようになることを目指します。

そして、日常生活で接するニュースや広告などで用いられるグラフについても、データの種類をとらえて特徴や傾向を読み取り、判断に生かそうとする態度を育みます。

授業プランにかかわる既習事項

・表と棒グラフ

「質的データ」や「量的データ」について簡単な表に分類整理したり，棒グラフなどを用いて大小を比べたりする。

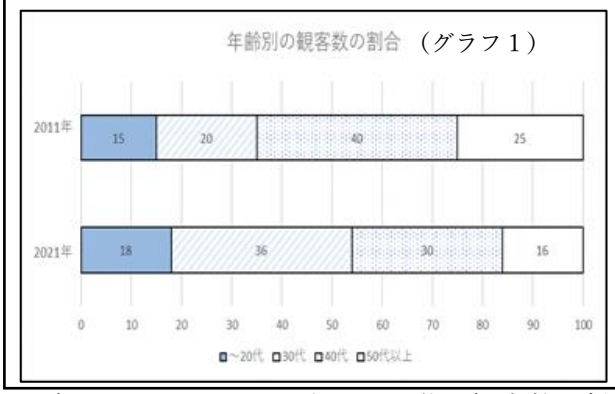
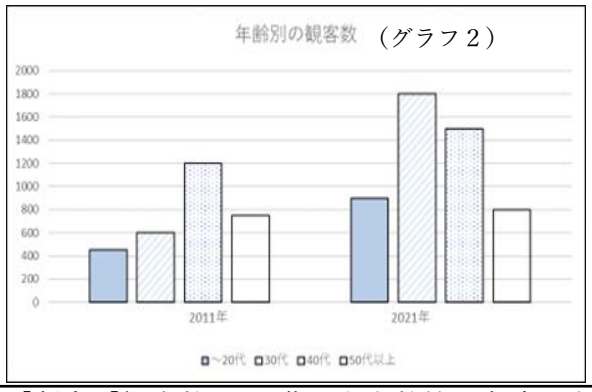
・小数の倍

小数を用いてある量の何倍かを表す。「基準量を１としたときに幾つに当たるか」と「倍」の意味を広げてとらえる。

ねらい

・目的に応じた適切なグラフを選択し、読み取ることができる。

東京書籍	１月下旬～２月上旬	新しい算数５下	89ｐ
啓林館	１月下旬～２月中旬	わくわく算数５	210～211ｐ
教育出版	12 月上旬～12 月中旬	小学算数５	196～197ｐ

学習活動	支援（◇評価）
1　グラフを見て、読み取れることを話し合う。 「これはあるバスケットボールチームの観客動員数について表したグラフです。それぞれのグラフからどのようなことが読み取れますか」	・自分の考えをもつことができるよう、グラフを読み取る個人思考の時間を確保する。
	
・グラフ1を見ると、2011 年は 40 代の観客数の割合が多いね。 ・グラフ2を見ると、2021 年は 30 代の観客数が多いことがわかる。	・「割合」「観客数」の言葉が表す数値の意味を確かめ、前時までの学習を想起できるようにする。
2　めあてを確認し、【考え A】【考え B】について、正しいといえるかどうかグラフをもとに話し合う。	
2つのグラフが表していることに着目して、目的に応じて正しく読み取ろう。	
【考え A】30 代の観客数は 2011 年より 2021 年が多い。 ・調べたいのは「観客数」だね。 ・グラフ2を見ると正しいことがわかる。 ・2011 年は約 600 人　2021 年は約 1800 人。 ・グラフ1だけではわからない。グラフ2と一緒に見れば正しいといえる。 【考え B】50 代の観客数の割合は 2011 年も 2021 年も変わらない。 ・グラフ1を見ると、割合は減っているね。 ・グラフ2の 50 代の観客数は大きく変わらないよ。 ・2021 年の全体の観客数が大きく増えているから、50 代の観客数は大きく変わらないのに割合は減っているんだね。	・学習活動1で、子どもから視点が出なかった場合、【考え A】【考え B】を授業者が示し、二つのグラフを関連させて、特徴や傾向を読み取ることができるようにする。 ・自分の考えを明確にすることができるよう、学習計態を工夫し、自分の考えを表現できる機会を設定する。 ・2つのグラフの違いを認めながら読み取ることができるようにするため、グラフの読み取りに関係する言葉（「観客数」、「年代別の割合」、「全体」、「大きい」、「小さい」、「多い」、「少ない」等）について、どのグラフのどこに着目して表現しているかを確かめる。 ・それぞれのグラフの特徴をとらえることができるようにするため、1つのグラフから得た結論について、もう一方のグラフで同じことがいえるかどうかを問いかける。

3　適用問題に取り組む。 せいやさんは、グラフを見て「40 代の観客数は、2011 年より 2021 年の方が少ない」と考えています。この考えは「正しい」ですか、「正しくない」ですか。またそれは、どちらのグラフを見て判断できますか。 ・観客数を比べているから、グラフ2で判断しないといけないね。 ・グラフ2で比べると、せいやさんの考えは正しくないね。	【知識・技能】 目的に応じた適切なグラフを選択し、読み取ることができる。【ワークシートへの記述等：出題、解答の方法による】 ・目的に応じたグラフの選択の仕方について理解が深まるよう、解答の共有を図る中で、正誤の判断の根拠やせいやさんの考えの誤り方を確かめる。
4　本時を振り返る。 ・年代別の「観客数」を比べるか、「観客数の割合」を比べるかで、読み取るグラフを考える必要がある。 ・身の回りのグラフが何を表すグラフなのか、とらえて考えたい。	・本時の学習を振り返り、それぞれのグラフの特徴をとらえて判断することを今後の学習や日常に生かす意欲が高まるようにする。

【評価問題活用場面】

・授業中の適用問題、単元末の課題、家庭学習等で評価問題を活用することを想定している。